

2025 年度
横浜みどりアップ計画
実績報告書【巻末資料】



横浜みどりアップ計画の評価・提案

横浜みどりアップ計画市民推進会議 2025 年度報告書

案

横浜みどりアップ計画市民推進会議

2026 年〇月

目 次

1 はじめに	1
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について.....	2
3 市民推進会議 2025～2026 年度の活動実績.....	3
(1) 活動の概要	
(2) 活動の詳細内容	
ア 市民推進会議(全体会議)	
イ 施策別専門部会	
ウ 広報・見える化部会	
エ 調査部会(現地調査)	
4 横浜みどりアップ計画の評価・提案.....	10
◆計画の体系	
(1) 柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	11
施策1 まとまりのある樹林地の保全・活用	
(2) 柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる.....	14
施策1 農に親しむ取組の推進	
施策2 「横浜農場」の展開による地産地消の推進	
(3) 柱3 市民が実感できる緑や花をつくる.....	18
施策1 市民が実感できる緑や花の創出・育成	
施策2 ガーデンシティ横浜の更なる推進	
(4) 効果的な広報の展開	21
市民の理解を広げる広報の展開	
(5) その他事項に対する評価・提案.....	23
5 市民推進会議委員名簿.....	25
6 市民推進会議委員からのコメント.....	28
7 広報・見える化部会からの情報提供.....	33

1 はじめに

この報告書は、「横浜みどりアップ計画市民推進会議」の 2025 年度から 2026 年度にかけての活動実績、および 2025 年度の「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」の事業・取組に対する市民推進会議の評価・提案をまとめたものです。

横浜みどりアップ計画では、「横浜みどり税」を財源の一部に活用し、樹林地や水田の保全、身近な緑の創出など、様々な緑の保全と創造に取り組んでいます。

市民推進会議は現地調査や施策別部会での議論等の活動を通して、このみどりアップ計画に対して市民目線での評価・提案を行っています。

2025 年度はみどりアップ計画が第4期目に切り替わって2年目となりました。

2025 年 10 月に行われた現地調査では、金沢区の関ヶ谷市民の森や柴シーサイド恵みの里、南区の大岡川プロムナードに実際に赴き、横浜の特徴あるみどりや市民生活との関わりについて理解を深めました。

各会議では、みどり税の認知度向上や市民との関わり方の拡大など、具体的な課題に踏み込んだ議論が活発に行われ、委員の皆さまの多様な視点から数多くの建設的なご意見をいただきました。

また市民推進会議では、市民委員を中心としたメンバーで「市民目線での情報発信のあり方」についても検討しています。ソーシャルメディア note での情報発信に加え、新たにポストカードを作成するなど、市民が”横浜のみどり”に触れるきっかけとなる情報提供の手法を広げています。委員自らが取組の現場を取材し、市民目線でその魅力を届ける活動に力を注いでいます。

横浜市のように、税金を活用して緑の保全・創造に取り組む事例は世界的にも珍しいものです。みどりアップ計画が 10 年以上にわたり積み重ねてきた樹林地の保全、農地の活用、身近な緑の創出といった取組は、横浜市民の皆様のご協力により実現されてまいりました。皆様のご協力に心より感謝いたしております。また、来年は、GREEN×EXPO 2027(横浜グリーンエキスポ)の開催を控え、世界の皆様へ日本そして、横浜の緑の取り組みを見ていただくことになります。

多くの市民が”横浜のみどり”に愛着と誇りを感じ、横浜グリーンエキスポを契機に生まれた機運や関心がさらなる、”横浜のみどり”の未来へと受け継がれることを期待しています。

横浜みどりアップ計画市民推進会議
座長 池邊 このみ

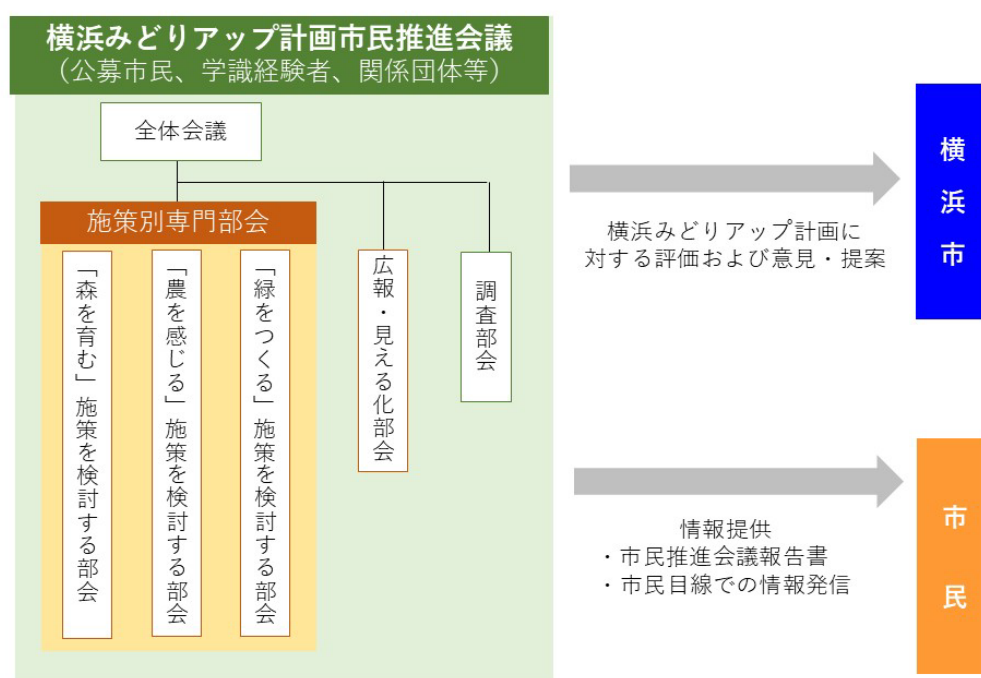
2 横浜みどりアップ計画市民推進会議について

「横浜みどりアップ計画市民推進会議」は、市民参加により、横浜みどりアップ計画の評価や意見・提案、市民への情報提供などを行うことを目的として、2009 年に設置されました。2012 年からは、条例に基づく附属機関として位置付けられています。

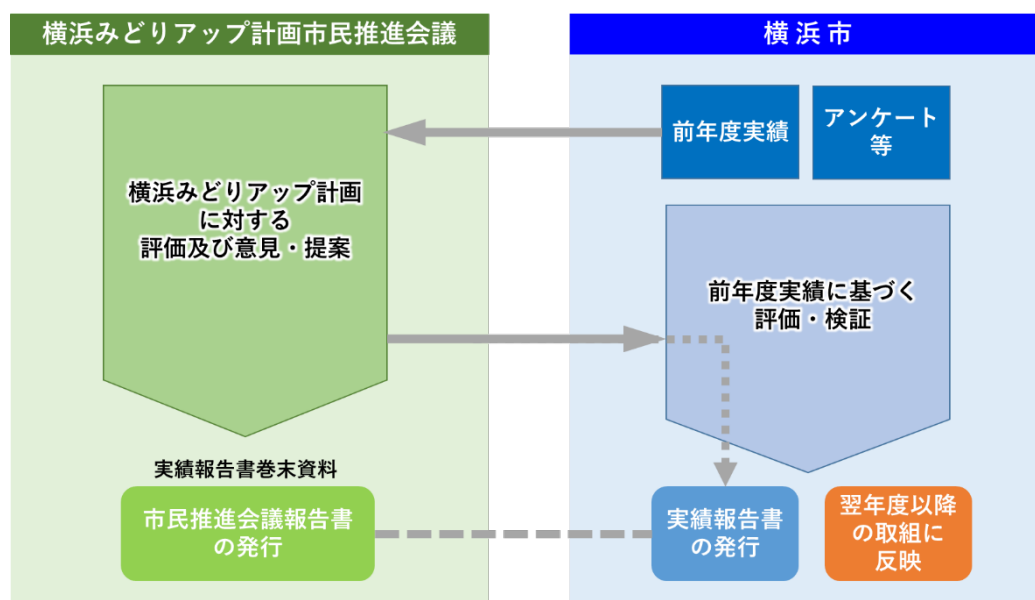
市民推進会議では、前年度の実績を踏まえて全体会議や施策別専門部会で評価及び意見・提案を行うとともに、みどりアップ計画の取組を行っている現場を視察し、現状の検証や関係する団体、市民の皆様と意見交換を行っています。

こうした評価や提案を報告書としてまとめ、翌年度以降の市の取組にも反映しています。

なお、2024 年度からは新たな委員も加わり、公募市民、学識経験者、関係団体、町内会・自治会の代表など、計 17 名で構成され、活動を行っています。（25 ページに委員名簿を掲載）



◆ 実績検証の体系図



3 市民推進会議 2025～2026年度の活動実績

(1) 活動の概要

ア 横浜みどりアップ計画に対する評価及び意見・提案

2024 年度から始まった「横浜みどりアップ計画[2024-2028]」の内容や進捗を確認しながら意見交換をし、2025 年度までの実績について、本報告書に評価・提案をとりまとめました。

また、みどりアップ計画の取組について現地視察を行い、現状の検証や関係団体の皆さまと意見交換を行いました。



活動の様子(全体会議)

イ 市民への情報提供

「みどりアップ計画」や「みどり税」について幅広く市民の皆さまに知っていただくため、情報提供のあり方について検討し、ソーシャルメディア・ポストカードを活用した市民目線の情報発信を行いました。



活動の様子(現地調査)

◆ 2025年度報告書発行までの活動実績

	2025年度報告書発行に向けた活動実績	市民への情報提供
R7 8月		HP・SNS による発信 第 60 回広報・見える化部会
10 月	第 25 回調査部会	
2 月		第 61 回広報・見える化部会
3 月	第 45 回横浜みどりアップ計画市民推進会議	ポストカードの発行
5 月～6 月	施策別専門部会 第 19 回「森を育む」部会 第 19 回「農を感じる」部会 第 19 回「緑をつくる」部会 第 62 回広報・見える化部会	
7 月	第 46 回横浜みどりアップ計画市民推進会議	
10 月	報告書発行	

(2)

活動の詳細内容

ア 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換を行いました。

第45回市民推進会議(2026年3月19日)

- ・横浜みどりアップ計画市民推進会議2か年の進捗状況について
- ・市民推進会議 2025 年度報告書骨子案について

第46回市民推進会議(2026年7月30日)

- ・横浜みどりアップ計画 2025 年度の事業実績について
- ・市民推進会議 2025 年度報告書(案)について



第46回本会の写真

イ 施策別専門部会

計画の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに詳細に説明を受け、意見交換を行いました。
※2014 年度からは「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、「広報・見える化部会」を設置しているため、「効果的な広報の展開」事業に対する評価・提案については、「広報・見える化部会」にて実施しています。

第19回「森を育む」施策を検討する部会(2026年5月26日)

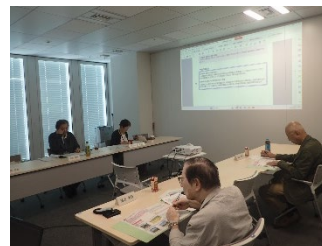
- ・「森を育む」施策の評価・提案について

第19回「農を感じる」施策を検討する部会(2026年6月5日)

- ・「農を感じる」施策の評価・提案について

第19回「緑をつくる」施策を検討する部会(2026年6月11日)

- ・「緑をつくる」施策の評価・提案について



各部会の様子

ウ 広報・見える化部会

施策別専門部会としてみどりアップ計画の広報について評価・提案を行うとともに、みどりアップ計画やみどり税についての情報提供のあり方の検討や情報発信を行いました。

2024年度からは、これまでの紙媒体での広報誌に代わる新たな情報発信のあり方を検討し、ソーシャルメディア「note」で「Yokohama みどりアップ Action」を発信したほか、その情報流通の手段として、イベント等で配布できるポストカードを作成しました。

委員自らみどりアップ計画の取組現場取材し、市民目線の現場レポートをお届けしています。

第60回広報・見える化部会(2025年8月26日)

- ・市民目線での情報提供のあり方について

第61回広報・見える化部会(2026年2月10日)

- ・市民目線での情報提供のあり方について

第62回広報・見える化部会(2026年5月27日)

- ・広報事業の評価・提案について
- ・市民目線での情報提供のあり方について



取材の様子



広報・見える化部会の様子



Yokohama みどりアップ Action

「Yokohama みどりアップ Action」は2019年度から2023年度までの間に、広報誌として1～9号が発刊されました。

2025年度からは、より多くの方々に横浜のみどりの魅力をお届けするため、ソーシャルメディア「note」に発信の場を移し、広報・見える化部会の7人が市民目線で“横浜のみどり”の魅力を伝えています。

(33ページにこれまでの実績を掲載)



https://note.com/yokohama_m_act



エ 調査部会(現地調査)

みどりアップ計画の取組を行っている現場を視察し、市職員や地域で活動されている方々と意見交換をしました。

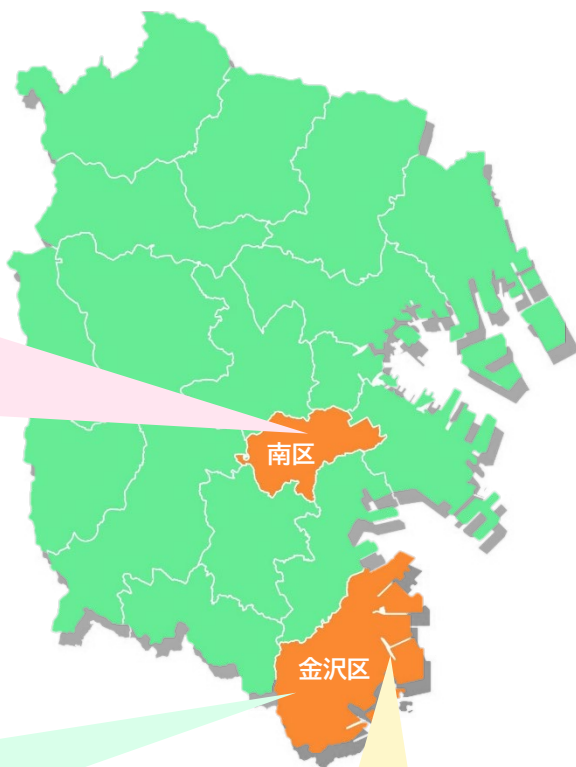
第 25 回調査部会

日 時 2025 年 10 月 29 日(水) 午後1時 00 分～午後5時 00 分

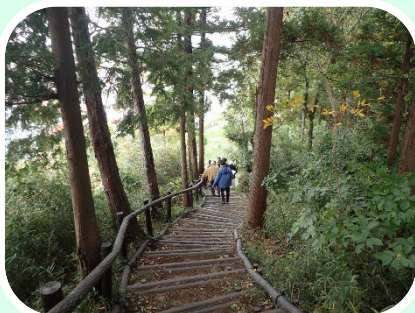
参 加 者 市民推進会議委員9名

調査場所 ・関ヶ谷市民の森(金沢区)
・柴シーサイド恵みの里(金沢区)
・大岡川プロムナード(南区)

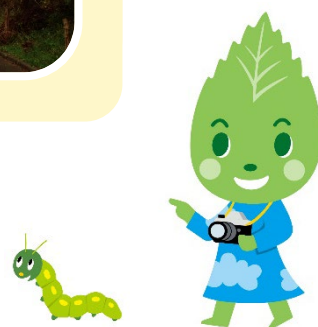
柱3 大岡川プロムナード



柱1 関ヶ谷市民の森



柱2 柴シーサイド恵みの里



(ア) 関ヶ谷市民の森

金沢区西部に位置する「関ヶ谷市民の森」を視察しました。森で活動している愛護会の方々から、森の維持管理や利活用、地域との交流等について説明を受けました。

みどりアップ計画 の取組

取組2 森の多様な機能に着目した森づくりの推進

取組5 森づくり活動団体への支援



森の中の視察の様子



森の素材で制作したおもちゃの紹介



活動団体からの説明の様子



竹林保全のために伐採した竹を利用した竹垣

委員からの声

- 伐採された竹で竹柵や遊具を作成する等、森の恵みが余すところなく活用されています。また、周囲の水路には蛍が生育し、地域の憩いの場として訪れる多くの皆さんに愛されている様子が伝わってきました。
- 活動に関わるメンバーは高齢の方が主体となっているとのことでしたので、より多くの協力者を巻き込みながら、この緑を次世代につないでいくことを期待しています。
- 「森を起点とした他団体とのつながり」というフレーズが印象に残りました。特に、小学校・フリースクール・大学研究室といった若年層との接点や、祭り等の近隣住民との接点が多く、開かれた団体であるという点で先進的な取組であると感じました。
- 竹林の整備と活用、植樹、梅の育成、地域や子どもたちとの関わりは、健康寿命を延ばす、高齢化社会のお手本となるような事例だと思いました。合わせて資源循環などの環境問題への寄与や、環境教育、コミュニティの活性化等の面からも、全国の参考になると思います。

(イ) 柴シーサイド恵みの里

金沢区にある「柴シーサイド恵みの里」を視察しました。農業者団体による農景観保全の取組、農体験教室や農産物の直売等、市民が農に親しめる取組について説明を受けました。

みどりアップ計画 の取組

- 取組 10 農景観を良好に維持する活動の支援
- 取組 13 市民が農を楽しむ支援する取組の推進
- 取組 14 地産地消にふれる機会の拡大



柴シーサイド恵みの里に広がる風景



市担当者からの説明の様子

委員からの声

- 地元の花、野菜、柑橘などの直売やJA横浜など地域と連携したイベントの開催によって市民に浸透し、注目度の高い地域柄と恵みの里事業の取組は、市民の農業への理解と横浜市の農業振興にも大きく貢献していると感じました。
- みどりアップの記載があるプレートが何ヶ所かありましたが、それでも少ない印象です。もう少しアピールできるといいですね。
- 急峻な立地で、市民のアクセスがよいとはいえませんが、地域の方が回遊できるような場所にしていくことも、みどりアップ計画としては大事な視点だと思います。
- 入り口にポップな看板等が見当たらず、近くを通っていても何があるか気づかないような印象を持ちました。知る人ぞ知る直売所ではもったいないと感じます。
- みかん等の収穫体験には多くの集客があることから、「半農半漁」を活かして海産物と農産物を1日で体験できるようなパッケージがあると、みどりや農を体験できるイベントとして子育て層にマッチすると感じました。
- 海が見える高台で地元農家の方々の協議会が管理していて、農家の方々が主体的に道路も含めたエリア全体を管理されている様子が印象に残りました。
- 横浜市と農家が本来めざしている、市民が農とふれあう場になっていることを実感いたしました。これからもさらに行政と農家が一体となって未来の子ども達のためにも御努力、発展されることを望みます。
- 地域の開発計画にみどり税を使った農に親しむイベントを組み込んだ工夫に感銘を受けました。ただ、一般の方から見ると、「みどりアップ」であること、「みどり税」が使われていることが分かりにくい点ももったいないと感じました。

(ウ) 大岡川プロムナード

南区内を縦断する大岡川沿いに整備された「大岡川プロムナード」を視察し、桜並木の維持管理や再生について説明を受けました。

みどりアップ計画 の取組

取組 18 街路樹による良好な景観づくり



大岡川と桜並木



市担当者からの説明の様子

委員からの声

- 南区内を横断する大岡川の桜並木の取組は、地域のコミュニティを活性させ、安全で快適な川辺を散歩できる空間として多くの市民に愛され、憩いの場となっていると感じました。
- 街路樹の維持管理にみどり税が充当されていることは意外に知られていないので、みどりアップの取組であることを示すプレートの設置は大変素晴らしいと思います。街路樹に限らず、みどりアップの取組であることを積極的に発信していくことが望まれます。
- 桜にも町にも川にも優しい管理を実感しました。この管理についてもっと市民の方々に知られることは、環境を守っていくことにもつながると思います。桜の季節だけでなく、もっと市民に愛される川になるといいなと思います。
- 市民が最も身近に感じられる自然という紹介が印象に残りました。他の取組と比べ、目的を持たずとも日常の景色として見ており、かつ地域市民の保全活動に依存しないものであるため、エリア問わず多くの市民が恩恵を受ける取組だと感じました。
- データベース化や舗装材の選択など街路樹管理の現状を伺うことができ、横浜市の取組が進んでいること、みどり税が街路樹にも有効に使われていることがわかりました。
- 桜の再生が、異なる品種の苗木の植栽だけでなく、歩道の透水性舗装への変更、根上り防止をはかる植栽基盤の施工などまで幅広い事業までが含まれるというのは目からウロコでした。
- 植樹して40年以上経過したとのことですが、並木の再生は予算面、工事等々、色々大変なことだと思います。市民が求めているまちなかの緑や街路樹にかかわる総ての人に頑張ってほしいと思いました。
- みどり税の使われ方が最も解かりやすく、また市民に自然に認識される場所ですね。「横浜みどりアップ葉っぱー」マークの使用など、今年度からの取組についても説明があり、今後の展開に期待したいところです。

4 横浜みどりアップ計画の評価・提案

市民推進会議では、みどりアップ計画の柱1「市民とともに次世代につなぐ森を育む」、柱2「市民が身近に農を感じる場をつくる」、柱3「市民が実感できる緑や花をつくる」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さまに周知するための「効果的な広報の展開」について、調査部会（現地調査）で活動団体などからいただいた意見も踏まえて、評価・提案を行いました。

◆ 計画の体系

柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1

まとまりのある
樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

事業② 良好な森の育成

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1

農に親しむ
取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

事業② 農とふれあう場づくり

施策2

「横浜農場」の展開による
地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

施策1

市民が実感できる
緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

施策2

ガーデンシティ横浜の
更なる推進

事業② 緑や花があふれる地域づくり

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開

森(樹林地)の多様な役割や機能が発揮されるよう、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承。

施策1

まとまりのある樹林地の保全・活用

事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

- (1) 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り

事業② 良好な森の育成

- (1) 森の多様な機能に着目した森づくりの推進
- (2) 指定した樹林地における維持管理の支援

事業③ 森に関わる多様な機会の創出

- (1) 森づくりを担う人材の育成
- (2) 森づくり活動団体への支援
- (3) 森に関わるきっかけづくり
- (4) 森の多様な楽しみづくり

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

市による土地の買取りについて

- ・土地の買取りについては、地権者の都合によるところも大きいですが、引き続き地権者のご意向を踏まえながら、積極的に対応してください。

事業②について

森づくりの推進、指定した樹林地の維持管理の支援について

- ・良好な森づくりを進めるために、森の維持管理においては、実際の作業員や地権者に対しても、「みどりアップ計画とは何か」、「横浜の自然をどう守るか」といった基本的な情報を共有することが重要と考えます。
- ・管理されていない山が増えています。みどりアップ計画を通じて、さまざまな人の力を借りながらこうした場所を守っていくことは、保全にしっかりつながっていると思います。こうした計画の成果もさらに PR できるのではないかと思います。

- ・みどりアップ計画として樹木の健全な育成をどう進めていくかという点で、「維持管理助成」は、私有地で大きな樹木を抱えている方にとって非常に重要な施策です。倒木の不安や近隣への迷惑などの悩みを抱える方が多い中で、さらに積極的に広報し、より活用しやすくする必要があるのではないかと思います。
- ・横浜の森について、50年後、100年後を見据えながら、みどり全体について、将来どのような姿を目指すのかを考えていただきたいと思います。

事業③について

森づくりを担う人材への支援について

- ・今多くの愛護会では、世代交代によるジェネレーションギャップが生じているのではないのでしょうか。愛護会等に所属していない方、あるいは所属している若い方が誰でも参加できる交流会のような仕組みがあれば、横のつながりが生まれ、組織の活性化にもつながると考えます。
- ・現在、企業の採用活動ではインターンシップやプロジェクト運営経験が高く評価される傾向があります。単に参加を呼びかけるだけでなく、イベント運営や企画立案などの役割を学生に担ってもらうことで、将来につながる学びの機会となり、参加意欲の向上にもつながるのではないのでしょうか。
- ・愛護会をはじめとする各団体と学生をつなぐ窓口や仕組みを整えば、新たな担い手の確保や活動の活性化にもつながると考えます。

森づくり活動団体への支援について

- ・貸し出したチップで作ったチップの使い道として、活動場所に撒くだけでなく、余ったチップは他の用途にも活用できるようなスキームがあるとよいのではないのでしょうか。

発生材の活用について

- ・大学や企業等には、「横浜産の木材を活用したい」というニーズが一定数存在します。伐採木の活用先を広げることで、より多くの人に森の魅力や価値を伝えることができると考えます。

森に関わるきっかけづくり(イベント・情報発信)について

- ・親子が参加できる取組では「よこはまこどもみどりアップ」リーフレットを配布する、講師に対しては「みどりアップ計画の事業なので、こういう視点で講義をお願いします」と伝えるなど、イベントもみどりアップ計画を知ってもらう重要な機会として活用する必要があると考えます。
- ・市民が森を知り、訪れるきっかけづくりとして、例えば市営バスの停留所名に「〇〇市民の森入口」といった表記を加えるなど、ライトな利用者層を増やすための情報発信やアクセス案内の工夫を強化する必要があると考えます。

横浜みどりアップ計画市民推進会議の「森を育む」施策を検討する部会において実感するのは、各種の緑地保全制度による指定の拡大、横浜市による買取りの保証によって森の保全活動が定着してきたことです。同時に、これらの森を育むための人材育成や森づくり活動団体への支援も着実に実行されています。緑の保全は、市民と行政による長い時間がかかる取組ですが、多くの市民の共感を得ています。また、「市民の森」で森を楽しむ機会も増加しています。

横浜みどりアップ計画の第4期[2024-2028]において、横浜のみどりアップ計画が絶えることなく実行されていることを高く評価します。さらに次世代にこの活動をどのように継承してゆくかが今後の大きな課題と思われます。

望月 正光

(2)

柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

良好な景観形成や生物多様性の保全など、農地が持つ環境面での役割や機能に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開。

施策1

農に親しむ取組の推進

事業① 良好な農景観の保全

- (1) 水田の保全
- (2) 特定農業用施設保全契約の締結
- (3) 農景観を良好に維持する活動の支援
- (4) 多様な主体による農地の利用促進

事業② 農とふれあう場づくり

- (1) 様々な市民ニーズに合わせた農園の開設
- (2) 市民が農を楽しみ支援する取組の推進

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

水田の保全について

- ・みどりアップ計画の支援がなければ、水田の維持は困難な状況にあります。景観や食文化の観点からも不可欠である水田の価値について、市民の理解と認知を深めることが、水田保全への長期的な支援につながると考えます。

特定農業用施設保全契約の締結について

- ・特定農業用施設保全契約は、大型の農業機械を保有する農家にとって不可欠な制度となっていることから、引き続き、良好な農景観を維持するための制度の継続や検討を願います。

事業②について

様々な市民ニーズに合わせた農園の開設について

- ・栽培収穫体験ファームや環境学習農園など、一般的な市民農園とは異なる取組も大変重要です。さらに、農園付公園にトイレ等があることは他都市では見られない特徴です。こうした設備が整えられることで、若い女性や乳幼児・子ども連れの方々も農体験に参加しやすくなるとよいと思います。

市民が農を楽しむ支援する取組の推進について

- ・地域でボランティア活動をしていると、専門家のアドバイスが欲しいという声をよく聞くため、「農のコーディネーター事業」は非常に良い制度だと思います。こうした制度も、市民や民間の方が利用しやすいように広報に力を入れてもらいたいと思います。
- ・みどりアップ計画の取組がなければ子どもたちに農体験を提供することもできませんし、協力してくださる農家の方々を募ることも難しいと思います。みどりアップ計画の取組は地域に根差しているからこそ、地域の方々も協力してくださるのだと思います。こうした取組をPRすることによって、市民の理解もさらに深まるのではないかと感じました。
- ・女性が農業の現場で活躍している姿を非常に素晴らしいと感じています。そうした方々の活動を紹介すれば横浜の農業に参加したいと考える市民が増えるのではないのでしょうか。

施策2

「横浜農場」の展開による地産地消の推進

事業③ 身近に農を感じる地産地消の推進

- (1) 地産地消にふれる機会の拡大

事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開

- (1) 地産地消を広げる人材の育成・支援
- (2) 市民や企業等との連携

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p. 〇
- 各区の実績
p. 〇～p. 〇

◆ 施策2についての評価・提案

事業③について

地産地消にふれる機会の拡大について

- ・市内産花苗についてはマルシェなどでの販売機会を活用するとともに、生産農家のストーリー性を組み合わせてPRすることで市内産の魅力をより効果的に発信でき、横浜グリーンエキスポに向けての機運醸成にもつながると思います。

事業④について

地産地消を広げる人材の育成・支援について

- ・横浜グリーンエキスポは、はまふうどコンシェルジュの活躍の場として非常に有意義な機会であると考えます。人材育成や企業との連携も視野に入れながら、このような場を通じて取組を進めることで、横浜グリーンエキスポの更なる盛り上がりにもつながるのではないのでしょうか。

◆ 柱2についての評価・提案

- ・地産地消や食という観点で、市民の台所としての性格を持つ卸売市場について、みどりアップ計画の枠組の中で市民に理解していただける仕組みがあってもよいのではないかと感じました。
- ・学校によって横浜農業や地産地消への理解・浸透の度合いが大きく異なると感じており、教育委員会との連携をさらに強化することが有効ではないかと感じます。

「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント

横浜みどりアップ計画の柱 2「市民が身近に農を感じる場をつくる」は、(1)良好な農景観を生み出す農地の保全と、そうした農業に市民が親しみを感じるための(2)地産地消の推進に関する取り組みを進めています。

水田保全はその代表的な取り組みです。昨今の米価高騰で、お米に関する情報が多く発信され、その「適正価格」をどう考えるといいのかも消費者にとって大きな課題となりました。横浜市の水田エリアは限定的であり、いわゆる地元産米はほとんどありませんが、水田稲作がもたらす景観が消失してしまうことは市民にとっても大きな損失となると思います。

また、みどり税は充当されていないものの、市民が地産地消にふれる機会を増やすための各種施策も積極的に進められています。市民が毎日食べる農産物と密接に結びついた「横浜農場」もみどりアップ計画で支えています。

部会では、各種施策が横浜の農業生産や食育、私たちの豊かな食生活を支えている点を理解し、高く評価しています。もちろん、計画された施策だけでは横浜農業・横浜農場を維持することは難しいため、引き続き、部会メンバーや担当職員のみならず効果的な対策を検討していきたいと思います。

池島 祥文



(3)

柱3 市民が実感できる緑や花をつくる

街の魅力を高め、賑わいづくりにつながる緑や花、市民が実感できる緑の創出。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援。

施策1

市民が実感できる緑や花の創出・育成

事業① まちなかでの緑の創出・育成

- (1) シンボリックな緑の創出・育成
- (2) 街路樹による良好な景観づくり
- (3) 公開性のある緑空間の創出支援
- (4) 建築物緑化保全契約の締結
- (5) 名木古木の保存

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策1についての評価・提案

事業①について

街路樹による良好な景観づくりについて

・都市樹木には木陰の憩いの場など、非常に重要な役割もあります。また健全な樹木を育てるためには維持管理が重要です。横浜市は全国のフロントランナーとして、「健全な樹木の育成が大事である」ということを、積極的に発信してほしいと思います。

公開性のある緑空間の創出支援について

・制度の対象者だけでなく、創出した緑空間が市民などにも広がっていくことを図やイラストなどを活用し、情報発信していくことが望まれます。

名木古木の保存について

・取組の認知が進むよう、引き続き広報に取り組むとともに、指定樹木の歴史を伝えることも重要ではないでしょうか。

施策2

ガーデンシティ横浜の更なる推進

事業② 緑や花があふれる地域づくり

- (1) 地域緑のまちづくり
- (2) 地域に根差した緑や花の楽しみづくり
- (3) 人生記念樹の配布

事業③ 子どもを育む空間での緑の創出・育成

- (1) 保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成

事業④ 緑や花による魅力・賑わいの創出・育成

- (1) 都心臨海部等の^{りよくか}緑花による魅力ある空間づくり

2025 年度実績報告書 関連ページ



- 取組の評価・検証
p.〇～p.〇
- 各区の実績
p.〇～p.〇

◆ 施策2についての評価・提案

事業②について

地域緑のまちづくりについて

- ・「地域緑のまちづくり」のような制度を町内会は重要視しています。必要な人たちに情報が届くように地域へのきめ細かな周知が必要であると感じています。
- ・地域でボランティア活動をしていると、専門家のアドバイスが欲しいという声をよく聞くため、「アドバイザー派遣」は非常に良い制度だと思います。こうした制度も、市民や民間の方が利用しやすいように、もっと広報に力を入れてもらいたいと思います。

人生記念樹の配布について

- ・子育て世代に届くように、情報流通を非常に丁寧に構築し、実行していただいたと感じています。今後、小学校入学前の最もニーズが高い層に効果的に情報を届けるにはどうしたらよいかという点も検証していければよいのではないかと思います。

地域に根差した緑や花の楽しみづくりについて

- ・対象が異なれば、それだけ多くの部署との連携が必要になります。地域、福祉、公園、教育、農業など、それぞれの部署と情報共有を密に行い、連携して取り組むことにより、参加者の増加や満足度の向上につながると考えます。
- ・コミュニティによる花壇づくりでは、多様な方々が参加している一方、多年草や宿根草を軸に取り入れることで管理の負担を軽減したローメンテナンスな花壇が運用されています。活動は十分に機能しており、環境への負荷が小さく生物多様性の向上にも資する多年草による新しい植栽手法が、すでに地域に根付いている点は、横浜の強みとして世界に発信できる取組であると考えます。

事業③について

保育園・幼稚園・小中学校での緑の創出・育成について

- ・夏の暑さが厳しくなる中、学校関係者や保護者の維持管理の負担を軽減するために、保育園・幼稚園、小中学校などにスプリンクラーや灌水装置を設置してはどうかと思います。
- ・ビオトープの整備等の際には、学校関係者が生物多様性や横浜の自然について学べる機会を充実するとよいのではないのでしょうか。

事業④について

都心臨海部等の緑花による魅力ある空間づくりについて

- ・持続可能な維持管理に向けては、各所で新たな植栽方法として導入が進められている多年草・宿根草をより一層活用していくことを含め、引き続き検討を進めていただきたいと思います。

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント

「緑をつくる」施策は、「市民が実感できる緑や花をつくる」ことを柱として、市立保育園・小中学校等の緑化、地域緑のまちづくり、民間企業による公開性のある緑空間の創出支援、都心部・臨海部の緑花による魅力ある空間づくりなど、多様な取組が着実に進められています。このような質の高い緑づくりを後押しする仕組みは、横浜市が国内のトップランナーと言えるものです。

一方で、部会では、せっかくの支援制度が必要な市民や事業者には十分届いていないことから、広報や情報発信にはさらに工夫の余地があるとの意見がありました。また、みどりに関わる部署が進めている優れた取組や制度についても、庁内の他部署に十分伝わっていないのではないかととの意見がありました。横浜市全体でみどりの取組をさらに広げていくためには、庁内外への情報共有や発信を一層進め、各取組が連携しながら相乗効果を生み出していくことが重要だと考えます。

さらに、気候変動への適応や環境負荷の低減、生物多様性の向上につながる多年草ガーデンの取組が市民や地域主体で広がっていることは、大変心強く感じています。

来年の横浜グリーンエキスポは、横浜市の先進的なみどりの取組を国内外へ発信し、さらに広げていく絶好の機会です。私たち部会も、その機運を高めながら、豊かなみどりのまちづくりが進むよう共に取り組んでまいりたいと思います。

竹内 智子

取組の内容や実績について、より多くの市民・事業者の皆様に理解されるとともに、緑を楽しみ、緑に関わる活動に参加していただけるよう、広報媒体の特性を生かし、効果的な情報発信を推進。

2025 年度実績報告書 関連ページ



●取組の評価・検証
p.〇～p.〇

事業①

市民の理解を広げる広報の展開

◆ 施策についての評価・提案

事業や対象ごとの広報の展開について

- ・広報は一つの目線ではなく、市民には市民目線、自治会には自治会目線、農家には農家目線、行政には行政目線が必要です。「みどり税がなければ横浜の大切なみどりを守れないこと」を、さまざまな目線から紹介していけば理解が深まるのではないかと思います。
- ・ボランティア等でみどりアップ計画の事業に参加している方々にも、改めて計画の内容を理解していただくことが重要です。市民推進委員の持つそれぞれのコミュニティの中で情報発信を行っていくことも大きな役割だと感じています。

広報の手段について

- ・行政の情報伝達手段としての紙媒体の減少、Web 媒体への移行の状況下で、情報が届く層・届かない層が変わってきています。Web 媒体では、情報の断片化と内容の先鋭化が進んでおり、個々の情報の編集精度を高め、理念がきちんと伝わるようにする必要があります。認知度の拡大だけでなく、理念浸透や満足度向上のための「情報の作り方」を、今後、さらに検証してもらいたいと思います。

市民の実感につながる広報について

- ・みどりアップ計画は「自分の暮らしに直結している」ものだということを市民に伝える必要があります。今ある仕組みだけではなく、もっと草の根的に広げていくような、全く異なる仕組みや方法で認知を効率的に広げていく方法を検討していく必要があると考えます。
- ・みどり税の認知の仕方についても、例えば使う言葉を「私たちはみどり税を通じて横浜の緑を守ることに参画しています」といった前向きな表現にすれば、市民が主体的に関わっているというイメージが伝わりやすくなると思います。広く共感を得て参画につながるような PR へと転換していく段階に来ていると考えます。

市のブランディングにつなげる体系的な広報について

- ・「みどりアップ計画は横浜独自の取組であり、プラスアルファの価値を生んでいる」ということを市民に伝わるようにしていく必要があると感じています。まちぐるみで緑を保全している価値を、「横浜市全体のブランドとしての緑」として位置付け、長期的な視点で、みどりのブランドをより強く打ち出して体系的にPRし、市民の誇りとなるような形にしていくことが大切だと思います。

広報・見える化部会 部会長コメント

みどりアップ計画の中身を知るほど、横浜の未来をつくる取り組みだと感じています。報告書を見る限り、計画どおり、もしくは計画を上回る成果を出している施策もあります。しかしながら、認知度という観点では残念ながらいまだに横浜市民全体の 50%近くが「知らない」という状況です。人口 376 万人都市横浜で半分に認知されていればよしとする見方もあるのかもしれませんが、しかし、9つあるプラネタリーバウンダリーの領域の観点でも気候変動、生物多様性の損失、森林破壊などの土地利用の変化など6つが危機領域に陥っており、みどりアップ計画を進める意義はさらに強くなると思います。農やみどりへの興味喚起につながる横浜グリーンエキスポを絶好のチャンスと捉え、さらに一段ステージをあげた施策と実行に期待したいと考えます。

大竹 千広



実績報告書について

- ・地域は住民のニーズにこたえる形で動いています。そのためみどりアップ計画の実績についても、取組によって、地域に体験の場が広がったり、学校教育にもつながったりするなど、地域が実際にどのように活性化したのか、地域へどんな寄与があったのかといった波及効果について示すことにより、事業への評価がさらに高まるのではないかと思います。
- ・報告書としてはよくまとまっていますが、より市民に分かりやすい表現への工夫が必要と感じます。

市民の関わりの向上について

- ・横浜市の所有する土地や施設と、活動したい学生とをつなぐ仕組みがあれば、若者を緑づくりの現場に引き込むことができると思います。緑の取組は数多くあると思いますが、場所を作るだけでなく、活用したい人をつなぐ取組も増やしていただけるといいのではないかと感じました。
- ・みどりアップ計画の3つの柱はいずれも、単にハードを整備するだけではなく、「農を感じる」、「実感できる緑・花」、「森を育む」という、関わりを前提としたものです。そういう意味では、今後はより多くの市民がより多様な関わり方ができる施策を強化していく必要があると思います。それは広報だけではなく、例えばコーディネーター派遣のように、事業展開の中で関わりが生まれる仕組みを増やしていくことが重要だと思います。
- ・一度みどりに関心を持ってくれた人たちが、その後どうやって緑に関わり続けるのかといった点が重要だと思います。現状では、緑の維持管理活動や学習など、比較的深い活動が中心ですが、「維持管理まではいかないけれど、少し体験してみたい」という層に向けた裾野を広げる事業が増えると、継続的に関わる方も増えるのではないかと思います。
- ・「木が1、2本あるだけで生まれる木陰」や、そこに置かれた居心地の良いベンチ、あるいは、ミストなどを使った涼しさの演出といった小さな工夫が、これからは必要だと思います。こうした小さな工夫によって、整備した場所がこれからも市民に愛される場所であり続けることが大切だと感じています。
- ・地域のためのみどりの場として、空き教室の活用も検討してみてもはいかがでしょうか。
- ・私たち 17 名の委員も、みどりアップ計画のアンバサダーのような立場で積極的にPRをしていきたいと思っています。

横浜グリーンエキスポについて

- ・地域で花づくりを行っていることに加え、林地や農地があり、農業も盛んであり、街路樹の整備にさまざまな工夫がされているなど、横浜グリーンエキスポは横浜市の多様な緑の取組を紹介できる機会でもあります。ホームページやパンフレット等で、「横浜市はこれまで長く、こんな施策を実施してきたから園芸博を開催する」という情報を発信し、海外の方に里山などにも足を運んでもらい、これまでのみどりアップ計画による実績を見てもらえるような工夫が必要だと思います。

維持管理について

・今後、植栽する樹種についても、高温や乾燥に強い種類やグラス類などの導入を検討する必要があると感じています。また、維持管理に関わる作業員の安全確保も重要です。草刈りロボットの活用や作業時間の見直しなど、働き方そのものを先進的に考えていくことが求められているのではないかと考えています。

5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 委員名簿

(50 音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
座長	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 教授
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学 グランドフェロー
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
副座長	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	内海 宏	学識経験者	(株)地域計画研究所 代表取締役
	大竹 千広	公募市民	
	小川 敬子	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長 (R8.7.30～)
	金井 順	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	菊池 賢児	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	北原 まどか	公募市民	
	小金井 進	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	酒井 智規	公募市民	
	竹内 智子	学識経験者	千葉大学大学院 准教授
	飛田 尚弥	公募市民	
	野路 幸子	関係団体	横浜市中心農業委員会 委員
	樋上 祐造	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長 (～R8.7.30)
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50 音順・敬称略)

役 職	氏 名	区 分	備 考
	石原 信也	関係団体	横浜商工会議所 産業振興部長
	岩本 誠	関係団体	三保市民の森愛護会 会長
	酒井 智規	公募市民	
	飛田 尚弥	公募市民	
部会長	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

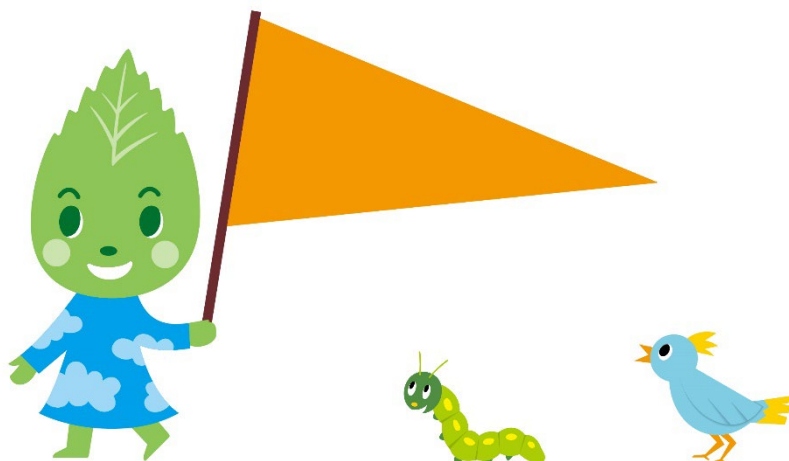
役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	池島 祥文	学識経験者	横浜国立大学大学院 教授
	大竹 千広	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	小金井 進	関係団体	横浜農業協同組合 営農部長
	野路 幸子	関係団体	横浜市中心農業委員会 委員

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
	小川 敬子	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長 (R8.7.30～)
	金井 順	公募市民	
	菊池 賢児	関係団体	横浜市町内会連合会 幹事
	北原 まどか	公募市民	
部会長	竹内 智子	学識経験者	千葉大学大学院 准教授
	樋上 祐造	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長 (～R8.7.30)

広報・見える化部会 名簿

役 職	氏 名	区 分	備 考
部会長	大竹 千広	公募市民	
	金井 順	公募市民	
	河原 真友子	公募市民	
	北原 まどか	公募市民	
	酒井 智規	公募市民	
	飛田 尚弥	公募市民	
	望月 正光	学識経験者	関東学院常務理事、関東学院大学名誉教授



6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきたなかで感じたことや、生活の中で、みどりについて日ごろ感じたことについて、委員からのコメントです。

内海副座長コメント

委員の皆様に通じていたのは、緑地や農地・緑化への「関わり」を増やすのが重要との意見でした。情報提供だけでは認知度は高まらず何らかの関わりが必要で、関心があっても行動に踏み出すためには「関わる機会」を創る必要があるとの認識です。具体的な提言としては次のようなことが例示されています。

- ① 用地買収、保全された緑地では、保全緑地の場所が確認できる地図情報の公開、散策会・自然観察会・バードウォッチング・湧き水探し等の体験イベントの開催など
- ② 農園・農地では、荒廃農地におけるオリーブ・レモン等の栽培、加工によるブランド化、子ども達を対象とする食農教室開催、双方向の対話を促す農体験の機会創出など
- ③ 緑花では、身近な小地域やポイントでの緑花（プチ花壇・緑陰を創る樹木植栽等）、公園や道路における市民参加型の公共緑化、オープンガーデンの普及を促す環境づくりなど

石原委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）

今年度の活動を通じて、横浜の豊かな緑地や農風景が、いかに多くの市民・企業・行政の手で守られてきたかを再認識しました。一方で、この貴重な財産を次世代へどう継承していくかが、今まさに問われていると思います。

いよいよ来年に迫った横浜グリーンエキスポは、花や緑の美しさだけでなく、防災や生物多様性、気候変動対策など、みどりが持つ多面的な価値を広く発信する絶好の機会であると共に次世代にこうした環境価値を継承する大きな契機となると考えます。

今後も、市民・企業・行政が連携し、未来を担う世代の視点を大切にしながら、持続可能な都市に相応しく横浜らしいみどりのまちづくりをさらに進めていくことを期待します。



岩本委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会 所属）

地球規模で温暖化が問われている現在、今を生きる私たちはいろいろな事を横浜市民全体、そして次世代を担う若者や子どもたちへ引き継ぐため、緑にかかわる一人一人、そして総ての者が連携し、実行していかなばと思っています。

横浜市の緑の取組に関するアンケート調査で今後行ってみたい事は森での散策やウォーキングが最も多くなっています。身近な森等でも横浜みどりアップ計画の中にあるように、健康づくり(ジョギングなど)を目的に、地域コミュニティで活用される場面が日々見られます。

今後の課題といたしましては多くの森、公園、街路樹等々の 50 年後、100 年後、その後を見据えた計画、維持管理が急務と考えています。特に街路樹の整枝、剪定、雑草の除去等は地域住民が日常的に安心、安全、快適な生活が出来る様な施策が望まれます。それぞれの横浜みどりアップ計画を進めるためには横浜みどり税の継続は多くの人々から必要という意見が出ています。

金井委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

この1年を振り返って、職員の皆さんが熱心に仕事に取り組まれていると強く感じました。しかし残念なことに、その仕事ぶりが市役所の内外で正当に評価されていないのではないかと危惧しています。

横浜みどり税を財源の一部に活用した横浜みどりアップ計画の長年の積み重ねがあったからこそ、2027 年に開催される横浜グリーンエキスポという一大イベントの開催に繋がっていると理解しています。しかしながら、皆さんの仕事に対する充分なリスペクトが足りない様に思えるのは私だけなのでしょうか？

青葉区役所の横浜グリーンエキスポ関連のイベントにおいても、みどりアップに関する言及が皆無である点は大変残念に思いました。こうした現状を打破するためにも、この活動の認知度アップが急務だと改めて感じた次第です。

河原委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

市民推進委員として活動し、2年が経過しました。

市内外の友人知人に横浜のみどりについて、胸を張って話ができるようになりました。

毎回の会議での熱い議論はとても刺激になります。

私の様々な食にまつわる活動において、横浜の農についての理解が少しずつ、市民に浸透しているのかなと感じることがあります。ですが横浜の森を含めたみどりにも、もっと多くの市民が関心を持ってもらいたいと思います。そのために横浜市内全小中学校で、横浜のみどり・農業、横浜野菜、果物の価値を授業として取り入れていただけたら横浜の未来はとても素敵なことになると考えます。

来年は横浜グリーンエキスポがあります。横浜のみどりについて一人でも多くの方が熱く語れる横浜市民が増えることを願います。

小金井委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

農地は、農作物を生産する場であるだけでなく、地域にうるおいと季節感をもたらす大切な「みどり」だと思います。農が息づく横浜であり続けることは、身近な自然や景観、地元の食、防災面での役割を守ることにつながります。また、市民が農や自然にふれ、農を身近に感じる場となるほか、直売所や収穫体験、地域での交流を通じて人と人のつながりや地域コミュニティを育む役割も果たしています。こうした農とみどりは、今の暮らしを支えるだけでなく、次の世代に引き継ぐべき財産だと強く感じました。そのため、農家だけでなく、市民や地域全体で守り育てていくことが重要であり、2025 年の施策を支える財源のひとつとして、横浜みどり税が有効に活用されていると評価できます。

北原委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

緑を守る、緑をつくることは、緑の専門家だけが担うものではありません。市民も何らかの形で関わることができる仕組みが、横浜みどりアップ計画だと思います。森に足を運んでそこに生きる生物の生態を学んだり、自然に親しむ経験は、緑の大切さを未来につないでいく「思い」を育むことにつながります。人間にとって「思い」とは緑を育む「種」のようなもので、この報告書にたくさん未来への種が散りばめられています。来年は横浜グリーンエキスポの開催年で、緑の市民活動を世界に発信していく大チャンス！横浜市民の誰もが緑をつくることに参画できる「横浜みどりアップ」という素晴らしい仕組みを広く伝え、未来につないでいくための契機にしていきたいものです。

酒井委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

市民推進会議の委員として活動する中で、情報発信の手法が紙媒体中心から、note や各種 SNS を活用した多角的かつ双方向性のあるものへと進化したことは、大きな前進であったと感じています。市民が身近に「みどり」に触れ、意見を寄せられる環境が整いつつあることは、計画の推進において重要な基盤です。

また、横浜グリーンエキスポを契機に、整備された緑地の認知度向上や、自然を取り入れたライフスタイルの発信が一層進むことを期待しています。日々の生活の中で緑を活用し、楽しむ市民が増えることで、「横浜のみどり」がより確かな価値として根付いていくと考えています。今後も市民と行政が協働し、みどりの魅力を広く伝えていく取組が進むことを願っています。

飛田委員コメント（「森を育む」施策を検討する部会、広報・見える化部会 所属）

2025 年度は広報・見える化部会大竹部会長のリーダーシップの下どうやったらみなさまにみどりアップ計画とそれを支えるみどり税へのご理解をいただけるか、頻繁で活発な議論に参加させていただきました。最初の成果が note「Yokohama みどりアップ Action」ページの立ち上げです。私はもともと横浜の森づくりボランティアで「森を育む部会」に所属しておりますが、戦争、物価高、AI の急速な一般化など昨今の様々な変化を受けてでしょうか？これまで「森」にはあまり興味がなかった市内小学生の親御さんたちが身近な森、特に横浜の森に子どもと出かけよう、でもどこへ行ったらいいの？のような質問を受けることも増えてきています。一方で全国自然保護団体等でご活躍の先生方でも横浜の「みどりアップ計画」「みどり税」をご存じないことは珍しくありません。みどり税を払う側がその恩恵をどうやって楽しめばよいのか迷い、市外の専門家が「横浜は企業からのお金がありますからねえ」と誤解に基づいたコメントをなさる。何か足りないに違いありません。先日の広報・見える化部会ではイベント時にみどりアップとみどり税をみなさまに伝える方法などが議題になり「農を感じる」「緑をつくる」部会のみなさまから目から鱗な視点のご提案が多々ありました。みどりアップを広く知っていただくためには森林保全・環境保全の枠にとどまっては不十分だろうと感じております。この意味で、来年の横浜グリーンエキスポはこれ以上ないほどの絶好の機会。先日、久方ぶりに日本へ遊びに見えた母校の先輩が「日本人は伝統的に自然が大切なものと感じるんだね」と言っておりました。うまく伝えれば「みどりアップ計画」の意味、横浜の森とみどりのすばらしさはみなさまにわかってもらえると思います。市民推進会議を通じ活動に尽力したいと考えます。

野路委員コメント（「農を感じる」施策を検討する部会 所属）

私は農部会に所属し、「農地を守る」活動に取り組んでいます。

これまで、市民の皆様にも少しでも「農」に親しんでいただけるよう、田んぼや畑で農体験ができる場を継続してつくってきました。

田んぼでは、小学生から大学生まで年間約 500 人が参加し、年間 3 日間の活動を通じて延べ約 1,500 人が農業に触れています。

また畑では、海外の方や 90 歳を超える高齢の方も熱心に野菜づくりに取り組んでおり、多世代・多国籍の交流の場にもなっています。

荒廃農地が増加している昨今、このような田園風景を通じて、一人でも多くの方が「農」に触れたいと思ってくださるのであれば、今後も地道な努力を重ね、現場に立ち続けていきたいと考えています。

樋上委員コメント（「緑をつくる」施策を検討する部会 所属）

私たちの緑化活動がガーデンシティ横浜の更なる推進に役立っているのではないかと自信を持ちました。市民が実感できる緑や花の創出に関しては着実に実績を重ねており、地域緑のまちづくりの地域に根差した緑や花の楽しみづくりも多様な形で広がっています。宿根草や多年草を使ったコミュニティ花壇で近隣住民と親和性を高め、球根ミックスばらまき花壇づくりでは色々な人たちが参加。また地域ぐるみで開催されるオープンガーデンも複数区で実績を積んでいます。

点から面へ・・・「広報」「必要な人に必要な情報」がポイントとなるでしょう。行政の役割を期待しています。



7 広報・見える化部会からの情報提供

ソーシャルメディア note への記事掲載

横浜みどりアップ計画
市民推進会議広報誌

Yokohama
みどりアップ Action

https://note.com/yokohama_m_act



◆人生の節目のお祝いに、緑を！ おうちで育てる人生記念樹



(2025 年8月掲載)

◆彼岸花



(2025 年9月掲載)

◆「森があるから、生き物がいる」 —横浜の自然を次世代へ



(2025 年9月掲載)

◆森のパトロール



(2025 年 11 月掲載)

◆「みどりアップ」の現場に 行ってきました！



(2026 年1月掲載)

◆学生たちの手で拓く、 新たな「森」の在り方



(2026 年2月掲載)

◆みどりが支える川の生き方



(2026 年2月掲載)

※市民推進会議事務局で作成した記事はこのページに掲載していません。

「横浜みどりアップ計画」を子育て世代に PR するためのポストカードを作成しました。ポストカードは各区役所・土木事務所・公園緑地事務所・農政事務所等の公共施設のほか、みどりアップ計画に関連したイベント等でも配布しています。

表面



裏面

＜暮らしを支え、豊かにするみどり＞	＜みどりの体験はコチラから＞	＜みんなでつくるみどりのAction＞
横浜には、森・公園、田んぼ・畑、植物のみどりがたくさんあります。このみどりをずーっとつないでいきたい！というみんなの思いが「横浜みどりアップ計画」です。	森をたのしむ	横浜にあるみどりの魅力はここから発信中！ note「YokohamaみどりアップAction」続々更新。
 横浜みどりアップ 葉っぱー	 緑をつくる 農を感じる	 つながる想い、育つ緑 横浜みどり税
 みどりアップ計画	 みどりアップイベントカレンダー	 note「YokohamaみどりアップAction」

作成: 横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
お問合せ: 横浜すみどり環境局戦略企画課(事務局)
TEL: 045-671-4214 E-mail: mk-mimiplan@city.yokohama.lg.jp

キリトリ線で切り取るとしおりになります！



2026年3月発行 メールはこちら



横浜みどりアップ 葉っぴー